

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.45 2012 4/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

職人の
仕事場を
訪ねる。



ナカノシマ大学

「江之子島へ、
ようこそ。」

高岡伸一
(建築家)

申し込み受付中!





職人の 仕事場を 訪ねる。

大阪を代表するビジネス街である中之島周辺で働くのは、背広姿の人たちばかりではなく、ものづくりに関わる手に職を持った人たちも多い。洋服や時計など、ちよつと渋いものが多い気がするのはいや、やはりこの街だからだろうか。職人たちの仕事ぶりと、その技をお伝えしよう。

取材文／江口由夏 大迫力(本誌)

店

主の秋友清孝さんは手造り腕時計を生み出すクラフトマンである。昨春秋にオープンした店舗兼工房には、秋友さんの作品のほか、自らが講師となって開いている教室出身者など14人の作家による時計が美しくディスプレイされている。「手作業なので、すべてが1点もの。細かいキズが残っているのもあたたかみがあって良いでしょう」と、その魅力を教えてくれた。

時計を動かす機械部分以外は、文字盤も針もベルトも金具も手作業でつくり、数十個のパーツを組み合わせていく。その難しさと醍醐味は、「作家的なセンスを発揮しながらも、時計として使えないと意味がない。全体像を思い浮かべながら、一つ一つの工程を積み重ねていかないといけない」そうだ。

店舗のあるビルは、もともと秋友さんの父親が経営していた縫製工場だった。その影響でアパレル企業に就職し、商社などを経て、20年ほど前に雑貨販売の業界へ。その中で出会った手造り腕時計作家の第一人者である篠原康治氏の作品に魅了された。当初は篠原氏の作品を販売するだけだったが、秋友さんも作家の道を志すことになる。

「当時、手造り腕時計の作家は2、3人しかいなかったんです。もっ

腕時計

crafz
数十のパーツを組み合わせて生まれる、
「オール1点もの」の腕時計。



秋友さんが造った時計。買いに来るお客さんも教室に習いに来る人も、圧倒的に女性が多いのだそう。アクセサリ感覚で身に付けられるのが人気のよう。



左／こちらで購入した時計なら、修理をしてもらえる。右／作業場の一角。この金属板を丸めて、時計の機械を入れるケースに。すべてが手仕事で生まれる。



クラフツ
crafz

手造り腕時計はお店にある現物を購入でき、価格は15,000円ぐらいから。文字盤やベルトの色、金具などを選べるイージーオーダーもあり、こちらは14,700円～。時計教室は月2回のペースで開催中。2日間の短期集中講座で、3本の腕時計を造ることができ、受講料は40,000円（材料費・税込み）。ネットでの通販も可能。☎06-6942-5234 11:30AM～8:00PM 無休
<http://www.crafz.net/>

と広めたいと思い、時計造り教室を始めて作家を発掘すると同時に、自分も習うことにしたんです。アパレルや販売をやつてきて感じたことは、ものを作れる人が一番強いということ。自分も強いポジションにいたいと思ったんです」。38歳の決断だった。

2000年、現在のビルの2階に、工房の一角に小さな販売コーナーのある店を開く。なかなか売れない時期もあったが、ようやく軌道に乗り始めたことで、まるで手造り腕時計の博物館のような現店舗のオープンにたどり着いた。今や大人気作家となった秋友さんが1年間に造る時計は年間5000本。生産が追いつかないため、教室出身のアシスタントと協力しながら作業に励んでいる。数えるほどしかいなかった作家もようやく30人ほどに。買う人も、造る人も、手造り腕時計を愛する人たちの裾野は広がっている。



昭

和49年（1974）に久太郎町で創業した有輪商店は、花

柄を中心に数多くの生地、製作を手がける。生地店やアパレル企業、雑貨店・手芸品店への卸が中心のため、一般の人にはなじみ薄かもしれないが、NHKの趣味講座に出演する有名キルト作家とのコラボ商品を発売するなど、プロからの信頼は厚い。その実力は妥協のない姿勢に裏打ちされている。生地の図案（柄）となる原画は、1枚ずつ図案家による手描き。デジタル化が進む中、職人の手によるやわらかいニュアンスにこだわる。また、通常は10枚ほどの型版数（生地のプリントに使う色数）を15枚以上も使う。これによって仕上がった時の柄の奥行きや深さ、立体感がぜんぜん違うのだという。創業時から集めている、ヨーロッパで手に入れた古い時代の生地サンプル帳を見せてもらった。柄のアイディアや色使いの参考に、今もよく使われているのだそう。「美しいものが好きで、特にバラの花を愛した」という創業者の美意識が、これを見れば一目でわかる。工夫を重ねながらそれを受け継いできた結果が、大阪はもちろん日本中に知られる「フラワープリントの有輪」という名につながっているのだらう。

職人仕事図鑑②

生地

有輪商店

美しさへのこだわりが、
生地の上で花開く。



図案家が手描きした原画を元に、プリントに使う配色パターンを指定して染工場へ発注する。この時、1枚の原画で8種類ほどの配色を試す。そのうち実際に商品になるのは5種類ほど。作家、染工場とのやり取りにも気を配り、とにかく丁寧なコミュニケーションが大事なのだそう。



ゆうわ
有輪商店

花柄を中心に和柄、キャラクターやポップな柄の生地も手がける。生地の素材や織り方もさまざまで、商品ラインアップはとにかく豊富。大型手芸店に卸すほか、一部は自社のホームページからネット通販も可能。5月24日（木）～26日（土）にATCで開催されるキルトウィークに出展。
☎06-6947-6777
<http://yuwafabrics.e-biss.jp>

左／これまでの商品の原画や配色指定書は、会社の歴史そのものだ。右／生地のサンプル帳。これをもって営業の方が取引先を回る。



紳士服

シニール・ムジニール デサキ

「かっこいい」を共有することで、
服の好きな人が増えるように。



シニール・ムジニール デサキ

スーツをはじめ、ジャケット、コート、パンツ、シャツなど紳士服全般を扱うオーダー店。スーツのオーダーは仮縫い付きで48,000円〜とリーズナブル。5年前からレディースのオーダーも開始。来店時は電話で予約を。☎06-6231-6710



窓の外には中之島公園のバラ園が。出崎さんは北浜テラスなど街を盛り上げる活動にも熱心に参加されている。



シャツのオーダーも3枚組で15,750円〜と嬉しい価格設定。注文してから2週間ほどでできあがる。

土

佐堀川沿いに建つビルの3階、大きな窓から中之島公園を見

下ろせる1室が出崎栄三さんの仕事場だ。仲間たちと事務所をシェアしていた時期も含め、独立してから30年近く、出崎さんは天満橋・北浜界隈を仕事場にして、紳士服のオーダー店を営んでいる。

出崎さんが手がけた洋服は数知れない。企業に向いて採寸をしたり、デパート・スーパーで注文を受けたりといった修業時代も合わせれば、数万着にも上るといふ。今や体に触れなくても見ているだけでだいたいの数字がわかるというのは、さすが職人のなせる技だ。

着る人の体型に合わせることが目的のフィッティングにおいて、出崎さんが大切にしているのはお客さんとのコミュニケーション。その人が何をかっこいいと思っているのかを知るためだ。会話や採寸を経て、自分の中でイメージを練り上げていく。仮縫いがあがった時に、「ここはもうちょっと詰めた方が絶対良いですよ」と提案することもしばしば。「ほんとですね」と納得してもらえると、一番嬉しいですね。それが満足や安心感となり、リピーターへとつながっていく。「洋服を作ることが好きな人を増やす」のが、出崎さんの変わらぬ目標である。

焼き上がりを均一にするべく、50個もの焼型を素早く窯に入れる。日々、体力勝負だ。



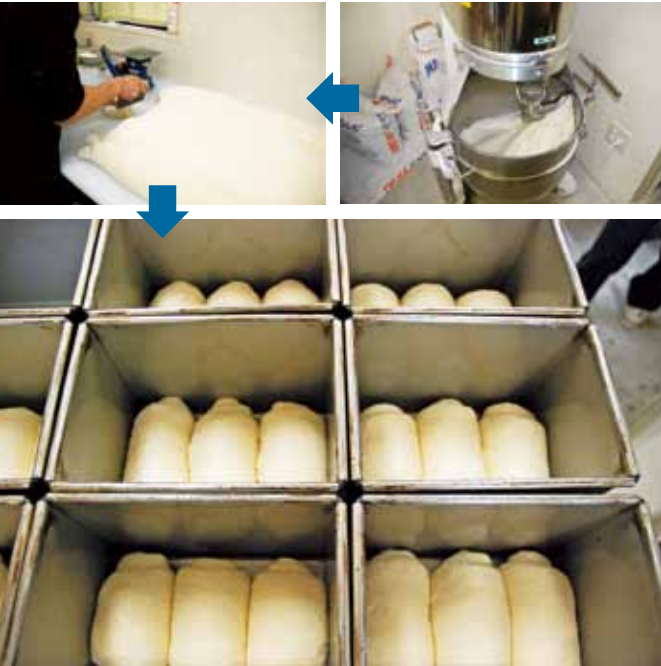
10 坪ほどの小さな工房を覗くと、休む間もなく作業するスタッフ、そして武内史雄さんの姿が見えた。焼き上がった食パンを窯から取り出すと、すぐにまた生地作りにミキサーの前へ。焼き上げる食パンは1日に2500〜3000本、1回の窯入れで約50本が焼ける。一度発酵させた生地をリズムよく切り出しながら、「体温が手から生地に移ったただけで発酵が進んでしまう。スピードが命です」と教えてくれた。

武内さんのもととパン職人志望ではなかった。10年勤めていたホテルではサービスを担当していたが、先輩が出店した食パン専門店に呼ばれたことで人生は変わる。「ただサービスをして美味しいと言われるのも嬉しいですが、自分の作ったものを食べてもらう喜びを味わいたかったです」。1年の修業の後、福島に小さな工房をオープンさせて今年で4年目。初日はチラシ持参の人に無料で配るなどの努力が実を結び、口コミで評判は広がり、テレビ取材が来るまでになった。

「これまでもこれからも、食パン一筋」という武内さん。誰もが口にするポピュラーなパンだからこそ好きになってもいいと、配合には特に気をつけた。パサパサしたイメ

食パン

食パン工房 ラミ
もっちり、やわらかな食感は、
スピード勝負で。



ミキサーでムラなく混ぜた生地を、200gずつ切り出していく。その手つきに狂いはない。成形後の生地を焼型に並べたら窯入れへ。とにかく速い。



食パン工房 ラミ

販売は食パン1.5斤500円のみ。必須ではないが、数に限りがあるため予約確認がベター。地方発送は2本から。福島区内なら1本から無料配達もしてくれる。☎06-6450-1976
12:00PM ~ 5:00PM 日・祝休
<http://www.lamie.jp/>



「おつかいで来た旦那さんが、待ちきれずに車で食べてしまい、『怒られるから、もうひとつちょうだい!』と慌てて駆け込んできたこともありです。今日も工房では、武内さんと4人のスタッフが懸命に食パンと向き合っている。」

湯気とともに窯から姿を現した食パンは、もっちりやわらかできめ細やか、そしてデリケート。冷めても美味しいが、やはり焼きたてが一番。「奥さんの



こちらの食パンは耳が薄く、しっとりとしてやわらかいのが特徴。割ってみると、そのことがよくわかる。

「ジを払拭するため、小麦は水分を多く含ませることができカナダやオーストラリア産。生クリームやバターは宮崎県高千穂ブランド。子供からお年寄りまでみんなが食べられるように、アレルギーを気づかい卵や安定剤などは一切使わず、飽きが来ない甘さを出すために練乳を加える工夫も。『同じレシピで作っても同じ味にはならない。だから僕が目が届く範囲で、可能な数だけ作っています』。安定した質へのこだわり、まとめ買いするリピーターが多いのもうなずける。原材料費が高騰しても1.5斤500円の値段を貫くのは、決して安くない食パンを買ってくれるお客さんへの感謝からなのだろう。」



安

政5年（1858）創業の「提灯舗かわい」は、大阪天満宮や天神祭に関わる講社（団体）のものをはじめ数多くの提灯を手がける。現在の河合清司さんで6代目、弟の浩司さんと共に伝統の技を守り続けている。自らも天神祭の御鳳輦講の一員として参加する河合さん、自分たちのつくった提灯が街を灯すのを見ては、誇らしい気持ちになるという。

祭りには欠かせない提灯だが、今は新調と共に古いものを修復して使うなどのメンテナンス仕事も多くなってきた。「良いものを作れば20年近く使える場合もある。でも、注文が減って困るけれど」と、河合さんは苦笑する。

こちらでは現在、文字や紋入れをするなど仕上げの作業を行っている。文字を描くのは兄の清司さん、紋入れは弟の浩司さんと決まっている。五月人形の飾り提灯に下書きをしている浩司さんの手元を眺めていると、「紋は下書きどおりにきっちり。図形やからね」。すると清司さんが「字も下書きはするけど、その通りに描くと勢いが出ないからダメ。性格の違いかもしれない（笑）。ちなみに清司さんはO型、浩司さんはA型。人の手による仕事らしい話である。

職人仕事図鑑⑥

提灯

提灯舗かわい
祭に欠かせない名脇役、兄弟の枝が伝統を守る。

左が河合清司さん、右が浩司さん。天井に吊られた乾燥中の提灯が、出荷を待っている。

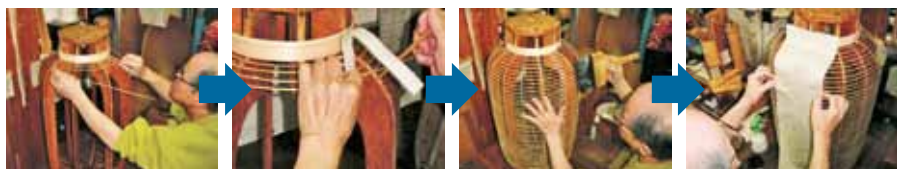


上／作業場には竹ひごや張り型などが所狭しと並ぶ。提灯のサイズには規格があり、こちらでは長さ・大きさの異なる約50種の提灯を作っている。



提灯舗かわい

今宮戎など大阪市内の神社ほか、近畿・四国・中国地方などにも納める。ごく小さいものから、直径2m近い大きなものまで素材や工法もさまざまな提灯を手がける。尺六長と呼ばれる、祭り時に門口に吊る提灯もランクにより数種類ある。個人用でも店舗用でも相談可能。ゆらぐ灯りをLEDで演出する家庭用の現代版行燈など新商品も。☎06-6351-2174
<http://www.chochin-kawai.com/>



提灯づくりの様子をダイジェストでご紹介。型を組み、竹から切り出した竹ひごでまずは骨組みを作る（骨掛け）。接合部分は和紙でしっかりと留める。その後、のりを塗って、和紙を張り付けていく紙張りという作業を行う。骨を1本ずつ組み合わせていくこのやり方は「地張式」と呼ばれ、他に丸竹ひごを螺旋状に巻いていく「巻式」という作り方もある。



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懷徳堂
プロジェクト

中之島からも近い江之子島に、 アート&クリエイティブライフの新拠点が誕生！ その正体って、どんな感じ？

何やら聞き慣れない「エノコジマ」…
中之島の西端から目と鼻の先にあるこの
場所は、実はかつて大阪の中心だった。
外国人居留地や大阪市中央卸売市場の前
身でもある雑居場の魚市、それに大阪府
庁や大阪市役所までが建ち並んでいたの
だ。1926年に大阪府庁が移転してから
というものの、あまりこの場所の名前を聞
かなくなっていたが、これから再び騒が
しくなってくるかもしれない。

4月1日に、アートとクリエイティブ
ライフの新たな発信拠点となる大阪府立
江之子島文化芸術創造センターがオープ
ン。展示や講演会などのイベントがどん
どん開催されるほか、カフェも併設され
る予定で、何やら楽しそうなスポットに
なりそうな予感。再び江之子島が大阪の
文化の中心になるかもしれない。

このセンターの企画・運営に携わるの
は、月刊島民でもおなじみの建築家・高

岡伸一さんはじめとする、大阪のさまざ
まな場面で活躍する面々。今の街のノリ
や空気感に敏感な人たちの手によって、
どんなことが行われるのか。施設の説明
と今後の展開だけでなく、注目エリアに
なりそうな江之子島の歴史も一緒に教え
てもらおう。

オープニングイベントを開催中！

江之子島文化芸術創造センターでは、4月
1日(日)～15日(日)まで、「都市×ART」をテ
ーマにした展示やトークイベントなど多彩なプ
ログラムを開催。水都大阪フェスなど、都市
におけるアートの試みを展望。詳細は<http://www.enokojima-art.jp>

◎今月の授業

【都市×アート】

2012年5月講座
江之子島文化芸術創造センターオープン記念

「江之子島へ、
ようこそ。」

講師／高岡伸一(建築家)



ナカノシマ大学にも度々
ご登場の高岡さん。近代
建築を現代的に活用す
るのも、このセンターの目
標の一つであるようだ。



新しくオープンした
ばかりの施設を
いち早く見学できます！

キュートな曲線を描く
外観を見ればわかる
とおり、このセンタ
ーは1938年に建てら
れた近代建築。レト
ロな雰囲気の残る施
設もぜひご覧下さい。

募集要項	「江之子島へ、ようこそ。」 日時／5月11日(金) 7:00PM～8:30PM 会場／大阪府立江之子島文化芸術創造センター 受講料／1,500円 定員／80名 主催／ナカノシマ大学事務局 協力／大阪府立江之子島文化芸術創造センター 大阪21世紀協会	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学5月講座」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら！→



お問い合わせ ☎06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)



スクリーンに映っているのは黒田さんが生まれた札幌を走っていた車両。「この洗練されたデザインが、電車を好きになる原体験になりました」。



2月22日(水) ナカノシマ大学2月講座

「すごいぞ! 大阪の鉄道」

@中之島デザインミュージアム

講師／黒田一樹(中小企業診断士・鉄道愛好家)

鉄道愛好家にとって関西は、個性豊かな鉄道会社が覇を競う「王国」。中でも大阪は、各社のターミナル駅が多く位置する王国の「首都」的存在。そんな大阪の魅力を語ってもらうべくはるばる東京からお招きした講師は黒田一樹さん。本業は経済産業大臣登録の中小企業診断士ながら、溢れる鉄道への愛が高じて、京阪電車80型を保存するなどの活動も。『月刊島民』でもすでにおなじみだ。

講演がスタートしてすぐ、「これからマーケティングリサーチを行います」と黒田さん。これは受講生の鉄道知識を測るもので、つまり鉄道マニア度のチェック。「鉄道グッズを身に付けている人」「家に鉄道模型がある人」「電車がホームを出るまで見送るのは礼儀だと思っている人」など、徐々にエスカレートしていく質問に、いきなり会場は笑いに包まれた。

次に、最近の鉄道事情を紹介するべく、東京で最近デビューした地下鉄などの車両について解説。よく似たデザインの

数々に、「どれも全く同じで見分けがつかませんよね」とため息混じりの黒田さん。実はこれが、鉄道王国・大阪の深い魅力を語るための前振りだった。

まずは阪急。「いじりようがない」と絶賛する6000系車両をはじめ、車両デザインの変遷を追いながら、背景にある思想を読み解いていく。その思想とは、創業者・小林一三の「ご乗客のために」という信念だった。車両の色、シートの素材、窓の形…随所に見られる“一三イズム”が、上品で高級なイメージを形づくっていったと指摘する。



続いては、阪急の上品・高級とはまた違うゴージャスさを演出する南海。例に挙げた特急ラビートのデザインや、空港のようなパタパタ式行き先案内盤がある難波駅などは、確かに「そこまでやるか」と驚くほどにゴージャスだ。その反面、レトロ感満載の汐見橋駅があるなど、全く異なる印象が同居している点に注目。「岸和田の蛸地蔵駅なんて駅名表示が毛筆! それをラビートの窓から見れば、まるでタイムマシンに乗っているみたいですよ」との黒田さんの名言に、聴衆は頷くばかりだった。

日本一の加速性能を誇るジェットカーを擁し、コンパクトで乗り換えスムーズな駅と共に「待たずに乗れる」を体現する阪神。長距離鉄道ならではのゆったりとしたホームや多彩な特急車ラインアップで、旅気分を盛り上げてくれる近鉄。そしてトリアは、2008年に中之島線が開業した京阪電車である。

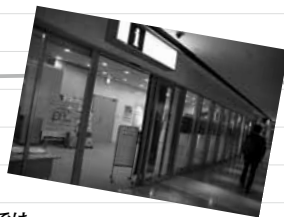
黒田さんは、車両サービスなどにおける日本初や関西初の多さを引き合いに、モットーである「進取の気性、技術の京阪」を頑なに守り続けるのが個性だと解説。5扉の通勤車、跳ね上げ式吊り革、フリーストップの日よけ、車両の隅に凝らされた掃除しやすくするための工夫…そんなマニアックな話にも嬉しそうに耳を傾ける受講者が多かったのは、やはり京阪ユーザーが多かったせいだろう。

総体的に「乗る人にやさしい」と、関西の鉄道事情を評価する黒田さん。愛と熱意がほとばしる語り口に、全員がさらに鉄道好きになったのは言うまでもない。





淀屋橋odona アイ・スポット通信



淀屋橋駅直結の複合型商業施設「淀屋橋odona」の2階にある情報発信スペース「アイ・スポット」では、大阪の歴史に関する展示が無料で見られるほか、月刊島民をはじめとするフリーペーパーなど街の情報も集まっています。さらに、毎月さまざまなミニセミナーも開催。会社帰りに、街遊びのついでに、ぜひお立ち寄りください！

展示	4/28 (土) 5/9 (水)	第31回 大阪都市景観建築賞(愛称 大阪まちなみ賞) パネル展 大阪市・大阪府・(社)大阪府建築士会・(社)大阪府建築士事務所協会・(社)日本建築家協会近畿支部の5者で構成する大阪都市景観建築賞運営委員会では、周辺環境を向上させ、かつ景観上優れた建物やまちなみを、府民の皆さんから募集。その中で特に優れた建物を表彰する「第31回大阪都市景観建築賞(愛称 大阪まちなみ賞)」の入賞作品がこのほど決定されました。これを記念して、入賞作品のパネル展を開催します。今年度は大きなオフィスビルから個人住宅まで合計7作品が選ばれています。	
---------------	--	--	--

アイ・スポット 大阪市中央区今橋4-1-1 淀屋橋odona2階 TEL&FAX.06-4866-6803 E-MAIL.i-spot@voice.ocn.ne.jp
開館時間/11:00AM~9:00PM(土・日・祝~8:00PM) 年末年始休 地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅10番出口直結 京阪本線「淀屋橋」駅徒歩1分
<http://www.city.osaka.lg.jp/keikakuchosei/page/0000018184.html>

申し込みも、
セミナーレポートも、
島民バックナンバーも...

ナカノシマ大学ウェブサイトで!

ナカノシマ大学のウェブサイトでは、毎月の講座の申し込みだけでなく、楽しめるコンテンツが満載。これまでに開催された講座の様子がわかる「セミナーレポート」のページのほか、島民のバックナンバーをダウンロードできるページもあり。島民、ナカノシマ大学のことならなんでも、ナカノシマ大学ウェブサイトです。

講座のお申し込み

お申し込みを受付中の講座はページのトップに。講座の概要から申し込みまで、スムーズに進めます。

バックナンバーはこちら

月刊島民のバックナンバーをダウンロードできるのをご存じですか？こちらからバックナンバー一覧ページに飛ぶと、PDF形式でダウンロードすることができます。

中之島の遊び方

月刊島民プレスによる中之島のおすすめスポット紹介も不定期で掲載中。

ナカノシマ大学ウェブサイト

シマで学ぶ、大阪を知る。

大阪のシンボルエリア・中之島を「キャンパス」に。
市民が学ぶための講座・研修やワークショップを開催!

・ナカノシマ大学について
・「月刊島民」バックナンバー
・21世紀の豊後堂プロジェクトとは?
・セミナーレポート
・What's New!
・中之島の遊び方

あの講座をもう一度

これまでに開催されたナカノシマ大学の講座の様子が見られるセミナーレポートページ。参加できなかった方はぜひ。

iPadでも見られます!

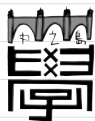
『月刊島民』がiPad用のアプリとして登場! iTunesストアで「月刊島民」と検索し、アプリをダウンロードするだけ。無料で簡単に手に入れることができます。毎月1日前後に最新号をリリースします。



21世紀の懷徳堂プロジェクト 4月の時間割

ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介します。

◎21世紀の懷徳堂プロジェクトとは… ナカノシマ大学が、(財)大阪21世紀協会、大阪大学、大阪市と連携しながら、大阪の街に「市民が学ぶための場所」を広げていくためのムーブメントです。



大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!! (OCC!!) では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。

2	月	9:00AM~/ 7:00PM~	「中之島の水辺で水上さんぽ」奥谷 崇(水辺ガイド) 参加費:3,000円(レンタル一式+保険+協力金) ☆毎日開催☆年中楽しめるノドルボード!バランス感覚が身に付きエクササイズにもオススメです!	会場 D
8・25	日・水	8日 1:00PM~ 3:00PM 25日 7:00PM~ 9:00PM	「三日月豆の苔玉教室『ハンギングタブロー』」松本佳子(三日月豆) 参加料:3,800円(材料費+軽食付き) タブローとはフランス語で絵画。カラフルな多肉植物で絵を描くように作ります。表札がわりやウェルカムボードに♪	会場 J
10	火	7:30PM~ 9:30PM	「石原正一のヨミズぎ〜古今東西名作朗読会〜」石原正一(役者・作演出家) 受講料:1,500円 古今東西の名作を参加者全員で物語を声にします。今夜は、中村勘三郎主演の野田秀樹2010年作品「表に出ろいっ!」。	会場 A
14	土	12:00PM~ 2:00PM	「ばんどう酒店『自然派ワイン講座』」坂東武子(ばんどう酒店) 料金:3,800円(自然派ワイン5種類+ワンプレートランチ) 5種類の自然派ワインのレクチャーとワンプレートランチをお楽しみいただきます。	会場 J
14	土	12:00PM~ 3:00PM	「マンマに習う『ポルトガル料理講習会&お食事会』」クララ・ペイショート(「PORTUGALIA」シェフ) 参加費:3,500円(講習代、お食事代含む) この道40年のポルトガル人シェフが伝統料理「豚肉のバブリカソテー・ミーガス添え」「エビのカナッペ」を紹介します。	会場 B
14	土	1:00PM~ 5:00PM	「楽しくつくる『革の手提げかばん』」outes&imutam(革ものづくり作家) 参加費:8,400円(材料費込み) アンチック仕上げのシュリンク革を使った、裏無しの軽いつけかばんです。	会場 H
14	土	2:00PM~ 4:00PM	「初心者のための絵画塾〜クレパスってこんなにすごかったんや〜」柿坂万作(画廊喫茶フレ임ハウス) 受講料:2,500円(画材費込み) 絵の基本を学んでオイルパステル(クレパス)を使って身近な静物を描いてみましょう。エプロン、手ぬぐい持参。	会場 F
15・21	日・土	1:00PM~ 2:00PM	「樹脂アクセサリー作りのワークショップ」ふくろうと猫/根岸よしこ(アクセサリー作家) 参加費:1,050円(材料費込み) 小さな金属枠の中にチャームや切手など好きなパーツを入れて、透明な樹脂で封じ込めたペンダントトップを作ります。	会場 H
16	月	7:30PM~ 9:00PM	「落語講座〜入口遊びで出口は文化!」桂蝶六(落語家) 受講料:2,000円(テキスト付き) 初心者のための落語講座。発声や心意気をプロに学びます。日常の話し方にも役立ちます。	会場 F
19	木	7:00PM~	「聴いて読む&洋書絵本を読む」山崎一郎(翻訳家) 参加費:1,500円(お茶付き) 今回は、グリム童話を読む予定です。	会場 K
21	土	2:00PM~ 4:00PM	「工作教室Coppa!! -置き(掛け)時計を作ろう!」ムラバヤシケンジ(アーティスト) 料金:2,000円 木の板をベースに、貼付けたり、色を塗ったりしてオリジナルの時計を作ります。	会場 C
22	日	10:00AM~ 11:30AM	「カフェで一緒に春の歌を歌いましょう」西影純枝(ソプラノ) 受講料:2,000円(ケーキ・コーヒー付き) ヴォイストレーニングを受けて、臘月夜、花(春のうららの隅田川)、めだかの学校などを伸びやかに歌いましょう。	会場 G
22・5/27	日	1:00PM~ 3:00PM	「中国茶会『春風 中国茶請けの魅力』」田華(高級茶芸師・国家資格) 料金:5,000円(3・4・5月3回講習12,500円) 涼菓・お粥・点心2種作り・茶菓子の作り・本日のお茶・お土産茶菓子。中国はハルビン出身の田華先生に習います。	会場 J
22・29	日	1:00PM~/ 3:00PM~/ 5:00PM~	「手織り生地でリボンブローチを作ろう!」booworks/渡邊航一郎(手織り作家) 参加費:1,575円(材料費込み) 沢山の手織り生地から一つ選んでリボンブローチを作ります。簡単に出来るので針や糸を扱ったことのない方でもOK!	会場 H
24	火	1:30PM~ 3:00PM	「セルフコーチング入門」平田美佐子(銀座コーチングスクール認定コーチ) 受講料:2,000円 自分の事を自分に聞いて、スムーズに目的を叶える方法を楽しめるワークでレッスン♪	会場 E
27	金	7:45PM~	「御拜聴!大韓ロックからFUNKY韓国歌謡まで!」長谷川陽平(ギタリスト・プロデューサー) 安田謙一(ロック漫画家) 受講料:2,000円(1ドリンク付き) 韓国60年代・70年代ロック、歌謡など、重箱の隅をユルく激しく突きまくるトークショー。	会場 I

A common café ☎06-6371-1800

B PORTUGALIA(ポルトガル料理レストラン) ☎06-6362-6668

C morrison(studio) ☎080-3113-4816

D 若松の浜

※お問合せ:アークスタジオ ☎06-6125-0550

E ULTRA 2nd COFFEE AND DINER ☎06-6949-8804

F フレームハウス ☎06-6226-0107

G カフェ アンドール 本町店 ☎06-6243-0584

H タビエスタイル ☎06-4963-7450

I CHOVE CHUVA(ショヴィ・シュヴァ) ☎06-6225-3003

J ボーボー屋 ☎06-6531-7827

K 貸本喫茶ちようちよぽっく

<http://www.geocities.co.jp/chochobocko/>



レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、
京阪電車中之島線にわ橋駅地下1階の「アートエリアB1」。4月のラインアップはこんな感じ。

12	木	7:00PM～ 8:30PM	ダンスワークショップ「踊りにおいでよ! ー第1回ー」 定員:30名程度 多彩な活動で注目されるダンサーの砂連尾さんをゲストに迎え、だれでも楽しめるダンスの魅力について体験するワークを行います。今まで気づかなかった身体の動きに関する不思議について参加者のみなさんと語り合います。
13	金	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ／哲学カフェ「公立校と私立校の違いとは?」 定員:50名程度 公立校と私立校の違いといえば、とくく学費や設備、進路実績の差に目が行きがちですが、公立校(あるいは私立校)であるがゆえに期待できる教育とはどういふものでしょうか。公立、私立校出身者が入り乱れてみんなで考えてみましょう。
15	日	7:00PM～ 9:00PM	マンガカフェ16「マンガ書店員シリーズ①「ヴィレッジヴァンガード」のマンガ担当さんに聞く!」 定員:50名 マンガ×大学×文化をテーマに、真面目に楽しく語り合っていきます。今回は、「遊べる本屋さん」としておなじみ「ヴィレッジヴァンガード」全店舗のマンガ担当の大岩強志さんを迎え、注目のマンガなどについて語り合います。
20	金	7:00PM～ 9:00PM	プロジェクト・ミーティング「アートと公共性」 定員:50名程度 美術館建設に関する対話や「大阪でアーツカウンシルをつくる会」との共同プログラムを開催していたプロジェクト・ミーティング。今回は「アートと公共性」について、哲学カフェの名マスター本間氏とタッグを組み、今さら言えないようなことも語り合いたいと思います。
24	火	7:00PM～ 9:00PM	シアターカフェ「自己紹介の作り方 演劇篇」 定員:30名程度 4月。環境が変わり、あらゆる場面で自己紹介をする機会が増えるこの季節。自分をどんな風に紹介すればいいのやら…。「自己紹介の作り方 演劇篇」では、演劇の手法をつかって(?)参加者のみなさんと「自己紹介」を作ってみようと思います。
25	水	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ／「コレージュのかせつ」を考えよう(1) 定員:50名程度 中之島哲学コレージュをやっている人は何を考えているんだろう? 哲学って? コレージュって? かせつって? これからどんなことをしたい? そんなことをゲストと語り合います。

会場／アートエリアB1 参加費／全て無料 当日先着順・入退場自由 問い合わせ／[カフェの内容について]大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD) ☎06-6850-6632 [場所などについて]アートエリアB1 ☎06-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。



大阪大学
21世紀
懷徳堂

大阪大学21世紀懷徳堂

●Handai-Asahi 中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

14・28	土	10:30AM～ 12:00PM	「前立腺癌の早期発見と治療法の選択について」野々村祝夫(大阪大学大学院医学系研究科・教授) 受講料／3,150円(全2回) PSA検診、前立腺生検の必要性和早期発見のポイント、そして早期発見された局所前立腺癌の治療法を説明します。保険適用の治療だけでもいくつもの選択肢があり、大阪大学の取り組みや治療法決定に重要な事項について解説します。前立腺癌はしばしば骨転移をきたし、ホルモン療法で治療しますがやがて効かなくなります。抵抗性となった前立腺癌に対する治療法が、新薬の登場などによって大きく変わりつつあります。
--------------	---	---------------------	---

会場／大阪大学中之島センター インターネット、電話、FAXか、朝日カルチャーセンターの窓口でお申し込みください。 <http://www.asahiculture.com/nakanoshima/index.html> ☎06-6222-5224 FAX.06-6222-5221 問い合わせ／朝日カルチャーセンター(中之島) ☎06-6222-5224

●大阪大学×大阪ガス「アカデミクッキング」 「専門分野の講義」&「料理実習」で°学問するココロ。が実践的に身につきます。

5/25	金	6:30PM～ 9:00PM	「ホットドッグ学概論 ～羊腸に詰められた挽肉と文化」小倉明彦(大阪大学大学院生命機能研究科・教授) 日本最初のホットドッグの誕生をごぞんじですか? 1934年11月24日、阪神甲子園球場では日本選抜軍が大リーグ選抜軍を迎えうりました。ホットドッグは「本場ニューヨークの野球観戦にはこれがつきもの」と神戸のドイツ人肉屋が、この日に合わせて送り込んだ必勝メニュー。しかし、当時の日本人は、この肉の塊になじみず、パンだけ食べたそうです。今夜はそのソーセージを再現してみましょう。 ◎課題料理＝腸詰めソーセージ(ホットドッグ、ポトフ)
-------------	---	-------------------	--

受講料／2,000円 定員／24名(※2011年3月と同内容なので新規優先。応募者多数の場合は抽選) 会場／大阪ガスクッキングスクール千里 申込受付期間／4月1日(日)～15日(日) web申込受付／4月1日(日)12:00PM～ 電話受付／4月9日(月)11:00AM～ ※当落のお知らせを4月16日(月)に全員に発送。申し込み問い合わせ／大阪ガスクッキングスクール千里 ☎06-6871-8561 <http://www.og-cookingschool.com/>

私が大学に入ったとき、医学部の定員は100人だったが、3回生の専門課程に上がるとき、学士入学の枠で20人の学士が入ってきた。ほかの大学を卒業して、いったん社会に出てから医学部に入り直す人々である。会社員あり、公務員あり、ポスドク（博士研究員）ありで、年齢も我々とは10歳前後離れていた。

20代前半の学生にとっては、30歳を超えている元社会人は、完全なオッサンである。服装も体型も年寄り臭く、話題も古い。

医学部の勉強は、解剖学にしろ病理学にしろ、単純に覚えることが多いが、学士連中はそれが苦手のようだった。ある学士は、「君らは頭が軟らかいな。オレたちはとても一度じゃ覚えられねえよ」と、自嘲を込めて嘆いていた。今から思うと滑稽だが、教養部上りの学生たちは、それを真に受け、「30歳を超えると頭が固くなって、記憶力が衰えるらしい」と、半ば優越感に浸りながら気の毒がったりしていた。

教養部上りの学生は、学士になんとか違和感を抱いていて、なかなか打ち解けなかった。私も珍しく喧嘩をしかけたことがある。

そのころ、私は同級生とともに「フレッシュ・メディスン」というガリ版同人誌を作っていて、原稿募集のためにちよつと凝ったポスターを作った。日本版プレイボーイのヌードグラビアを切り抜き、女性の胸と腰の部分に四百字詰め原

稿用紙をビキニの形に貼って、吹き出しに「原稿用紙、取る勇氣はないの？」と書いたのだ。講義室にそのポスターを貼ると、最年長組の学士が、私のいない間に、ポスターの原稿用紙を実際に取ってしまった。私は激怒し、だれがやったかを聞いて、その学士に「なんであんなことした」と詰め寄った。返答によつては胸ぐらをつかみかねないほどの怒りだった。

ところが、学士はさすがに年の功で、私の剣幕に動じることもなく、「うん？ 原稿用紙を取ってみろって書いてあったからだよ。アカンかったのか。悪い、悪い」と、奇妙な関西弁まじりの標準語で受け流した。人を喰ったような口調にすっかり氣勢を削がれ、私は拳を握ったまま引き下がらざるを得なかった。

同じ学士でも、教養部から入ってきたKさんは一風変わっていた。横浜国立大学の出身で、年齢は私より7歳上だった。教養部の学生はせいぜい2浪までで、7歳も年上というのはそういう大人に見えた。背は高くないが、どこなく貫禄があり、笑い方も豪快だった。おまけに黒縁眼鏡にマルクスのような髭を生やしていて、外見的にも20歳そこそこの学生とは明らかに一線を画していた。

Kさんの言動で最初に驚いたのは、体育の授業で教師が出席を取ったときだ。ある学生が不幸にして入学直後に急死し、訃報を知らない体

中之島ふらふら青春記③ 久坂部羊 マルクス髭の 老医学学生。



育教師が、出席簿を見ながら、「キムラ」と、その死んだ学生の名前を呼んだ。学生たちは一瞬、凍りついた。どう反応していいのかわからなかったからだ。すると、やおらKさんが、「キムラ君は死んだよ」と標準語でさりとて言うのけた。教師はぎょっとしたようだったが、「そうか」と言って、何ごともなかったように次へと進んだ。

あのときの学生の緊張は、級友の死をあらかじめにすることへの躊躇だったと思う。それをKさんは苦もなく口にし、事態を順調に進めた。事実であれば「死」も覆い隠す必要はないんだと、私は教えられた気がした。

Kさんはあまりまじめな学生ではなく、教養部の講義もよくサボっていた。そのため専門課程に上がるときに留年しかけた。Kさんはネットになっていった語学の教授に直談判に行き、見事に単位を勝ち取った。そんなことができるのはKさんだけだった。それで、別の学生がやはり語学で落とされそうになったとき、友だち10人ほどでKさんと呼びに行き、当該学生とともに教授の家に押しかけた。数で圧倒して、ネバればなんとかなるだろうという目算だった。

Kさんは学生離れした弁舌で、「1年の留年がほんとうに彼のためになるのでしょうか。彼にはもっと有意義な時間を過ごさせてやってほしい」などと説得したが、敵もさる者で、宵の

口から明け方まで10時間以上団交したが、ついに単位をくれなかった。我々は疲労困憊して教授宅をあとにしたが、落ちた学生も、Kさんの交渉で無理だったのなら仕方がないと、納得したのではなかったか。

私はKさんとはそれほど親しくなかったが、特殊救急部の当直実習でたまたまペアになり、一晩中、話をしてやや打ち解けた。名列番号が近いので、臨床実習のグループも同じで、卒業試験の息抜きには、私が個人的にやっていた「大阪名所を漫歩する会」で、いっしょに法善寺横丁や通天閣に行ったりした。

そんな縁もあり、私が大学を出てすぐ結婚したときには、披露宴の司会をしてもらった。

Kさんは独立独立の人で、大学を卒業しても医局には入らず、独自の研修病院で医師としての道を歩みはじめた。基本的には内科医だったが、あらゆる科の研修を積み、奥さんは自宅出産で、Kさん自らが愛娘を取り上げた。やがて埼玉県飯能市^{はんのう}の診療所に赴任し、その後、西武池袋線の飯能駅^{はんのう}前で開業した。

秋田で開かれた学会の帰りに遊びに行くと、奥さんに「ぼんち風とんかつ」を作らせてご馳走してくれた。「ぼんち」は道頓堀にあった店で、低温の油で揚げる軟らかなとんかつが名物だった。「漫歩する会」でいっしょに行き、Kさんがいたく気に入って、調理法を研究し、奥さんに

作らせたのだ。

その後、大阪で同窓会や飲み会があるたびに、Kさんは埼玉から来阪し、何度か私の家にも泊まってくれた。私と同じ在宅医療をやっていたので、看取りが近い患者さんはどうするかと心配したが、Kさんは、「大阪から帰るまで、死ぬのは待ってろよ」と言ってくるのだと笑っていた。

Kさんの突然の訃報が届いたのは、それから数年後のことだ。享年57歳。死因は肺がんで、日曜日の夜に咯血して、大学病院に運ばれたが、治療の甲斐なく、その夜遅くに亡くなったとのことだった。

私は葬儀に出席したが、祭壇に飾られた写真は、かぎらない受容の涼しげな笑顔だった。横に半袖の白衣の下に長袖のボロシャツを着て、黄色い袖がはみ出ている写真もあった。Kさんらしい大らかさだと笑いを誘った。葬儀には大勢の患者や医療関係者が参列し、飯能のきれいどころらしき女性も来ていた。

息子さんによると、Kさんは死ぬ前の夜も医師会の集まりで飲み、当日も自宅であつうに過ごしていたという。おそらく肺がんが動脈に浸潤して起きた咯血だろうが、Kさんらしいあつさりした引き際だったと思う。

今でもときどき年長の友人として思い出すが、いつの間にか、私がKさんの享年に並ぶ歳になつてしまった。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。

麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。

現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。

「4月28日土曜日、追手門学院大阪城スクエア（天満橋）で開かれる第3回追手門寄席（P20）で、本誌でもおなじみの高島幸次氏と対談させていただく予定です。テーマは『医師と看護師と落語家』と。

時間は午後2時から4時半です。落語は3席とも医者ネタ。楽しみます」

見たり、 見られたりの関係。

「魅せる現場」

堂島川沿いを航行中、ある工事現場の横断幕に面白いスローガンが示されていた。「魅せる現場」うまいこと言うなあと舵を取りながら思った。「安全」とか「効率」「節約」よりずいぶんハードルは高いけれど、確かに一流の仕事人の仕事場は、美しいと聞く。

川は油断させる。

川に囲まれた中之島という街にいと、他の街より「見る／見られる」場面が多いように感じないだろうか？ 僕が小さな遊覧船の船長をやつていて日常的に橋の上から眺められている、という



事情もそう感じる理由に違いはない。けれど、こんな島民の方はきつと少なくないはずだ。ビルの中に

いるときは、ボンヤリ階下の水面のほうへ目をやってみよう。地上を歩けば、遊歩道のベンチで昼休みする人のお弁当などにフツと目がいつてしまう。

きつと川の存在は街の緊張感を和らげていて、普段は視線のひとつを投げるにもピリピリしている都会人を、ちよつと油断させているんじゃないかと。それで「見る／見られる」があちこちに発生する。

なにげない瞬間。

で、中之島が良くできていると思うのは、そのなにげない視線の先に「魅せる」ものがちゃんと仕掛けられていること。普段は気にも留めなかった誰かが急に好ましく感じる時というのは、そういうなにげない瞬間に「魅せられた」時だ。

土佐堀川沿いに腰を下ろす。隣のベンチに美人が座っているんじゃないだろうかとふと目をやると、視線の先には錦橋。たとえ隣の人（予想外にオジサンだったとしても背景に救われる（当然そういう場合のほうがいい）。「僕がいま右を見たのは、錦橋を含む中之島の景色を愛でていたんですよ」と誰に言い訳するでもなく頭の中でつぶやきながら、錦橋はやっぱりかっこええな、とその時思う。今日もまふまふ中之島の手に際る。

観察型と雰囲気型

「遊覧」するには2つの基本姿勢があつて、あ



ちこちに焦点を合わせながら「観察」していく型と、どこにも焦点を合わせない「雰囲気」を楽しむ型がある。と、僕は勝手に分類している。この両方をうまく使い分けるのは、けっこう難しい。移動じゃなくて遊覧しているのだから、ボンヤリしたい。が、名所と言われるところはちゃんと見たいし写真も撮りたい。クルーズの船上などは特に酷な状況で、水上の心地よさに浸りすぎると、あつというまに名所は通過してしまふ。

特に中之島は「観察」と「雰囲気」の両立が難しい。僕はいつも「油断せずに楽しんでいくてください」とガイドする。とはいえ、この島は遠くのリゾートにあるわけでもないし、季節限定でもない。水から陸から、何度でも味わえる。海外旅行でもついつい名所を見逃してしまふ雰囲気型の僕には、ありがたい場所だ。



中野弘巳 御舟かもめ船長

なかのひろみ

中之島をはじめ、大阪の水辺をクルーズする小さな遊覧船「御舟かもめ」船長
<http://www.ofune-camome.net/>

都市は新陳代謝を繰り返す。朝日新聞が中之島で新聞づくりを始めたのが明治18年(1885)。その31年後に時計塔の社屋が建ち、15年後に超モダンな朝日ビルを建て増した。そして更に37年後、昭和43年(1968)に旧社屋と朝日会館を建て替え、朝日新聞ビルが完成する。これによって中之島の朝日建築は、全て昭和時代の建築に入れ替わった。中之島における朝日新聞の、昭和時代の総括といえるビルである。

計画段階では様々な案が検討された。最も重要なことは、新聞

の発行を1日たりとも止めないこと。そのためには同じ敷地での建て替えではなく、郊外に新しく本社と印刷工場を建設することも検討された。合理的に考えれば、その方が工期も短く費用も抑えられ、のびのびと自由に新建築を構想できたはずだ。しかし、朝日新聞はあえて中之島に留まるという選択をする。朝日新聞の歴史は常にこの地と共にあった。中之島は、朝日にとって特別な場所なのだ。

しかし、その選択と引き換えに背負うことになった課題は、あまりに困難なものだった。工事の地鎮祭が昭和37年(1962)12月28日。新聞の発行を止めないため、まず旧社屋の西に3分の1だけ建て、昭和39年(1964)

第七話

中之島へのこだわり。

都市美を 伝えて 朝日新聞と 中之島の130年

取材文 高岡伸一



優雅なカーブを描いて阪神高速が朝日新聞ビルの中に吸い込まれていく。約30年前の写真だが、中之島の風景は一変した。写真提供/朝日新聞社史編修センター

外から窺い知ることではできないが、中之島にこだわったその勳章のように、朝日新聞ビルを特徴付けているのが、ビルを南北に貫通する高速道路だ。かつて朝日新聞の西側には堀割が流れて

秋の東京オリンピックに焦点を当てて、最小限の新聞編集・印刷機能を仮移転させた。それから3年余り、せまくて不自由な西館の仮設時代が続く。その後続けて残りの3分の2を建設するが、輪転機を設置するためにビルは地下5階となり、ただでさえ軟弱な地盤の地下工事は、大変がかりなものとなった。

設計・施工を担当した竹中工務店は、日本建築学会賞を受賞した「竹中式深礎工法」で、この難題を乗り越える。2期にわたる長期間の工事や、地下5階の大深度は、完成すれば

いたが、その埋め立て地を大阪市から取得して前述の西館を建てようとした。しかし同時期に阪神高速道路公団が伊丹の大阪国際空港(当時)へつながる新しい高速道路を、この場所に通すことを計画していた。その両方を満足させるために編み出したのが、ビルの中に道路を貫通させるといって、前代未聞の合体案だったのだ。

昭和43年10月1日、ようやくビルは完成した。完成までには約6年を要した。関係者の感慨はさぞかし大きかったことだろう。これまで紹介してきた朝日建築は、建築界をリードする斬新なデザインばかりだったが、アイボリーのタイル壁に覆われた朝日新聞ビルは、一見地味なビルに見えるかもしれない。しかし朝日新聞ビルは、中之島の地にこだわり抜いた朝日新聞の執念と、これに応えた竹中工務店の技術の結晶なのである。



NAKANOSHIMA
FESTIVAL TOWER
中之島フェスティバルタワー

ちょっと、隣のビルまで。

取材・文／大迫 力(本誌)



特別編

三井住友銀行大阪本店

会社のDNAを、
そして大阪の歴史を継ぐ、
現役の銀行ビル。



窓口のある1階ホール。このフロアだけで約200人の行員が働いている。音の反響がとても良く、「番号札3番でお待ちのお客様、お待たせしました」の声も、どこか格調高く聞こえる。つい見入ってしまうが、銀行であるため、くれぐれも見学のためだけに訪れることはないように。



上／地下1階にある貸金庫の入口を特別に見せていただいた。昭和初期から使われているという巨大な扉の重量はなんと15トン！直径2.4m、厚さは75cm、開け閉めは重労働と聞いて納得。右／入口の扉部分の「押ス」の文字や、怪物をかたどったガーゴイル（雨樋の排出口）など、近代建築らしいディテールもあちこちに見られる。



近代にふさわしいビルディングを。

土佐堀川の南に建つ三井住友銀行大阪本店は、そのどっしりとした外観と、正面玄関の円柱をはじめとする華麗な装飾で知られる。大阪の近代建築を代表する街のランドマークでありながら、銀行の窓口業務も行っており、島民にとっては意外に身近な存在でもある。

ビルの工事が始まったのは大正11年（1922）のこと。現本店の南半分にあたる部分にあった木造2階建ての洋館が手狭になってきたため、新たなビルの計画が持ち上がった。官公庁や百貨店など大建築が大阪市内でも増えつつあったこともあり、住友の拠点にふさわしい近代的なビルディングが望まれた。そんな声に押されて工事は進められたが、翌年に関東大震災が発生。その被害を目の当たりにした住友家の3代目・住友吉左衛門は、当初7階建てだった計画を6階建てに変更。防火対策や避難態勢も考慮し、予定していた外部への賃貸も取り止めたという。

工事は2期に分かれて行われ、昭和5年（1930）にはすべての建物が竣工した。外装に竜山石、内部の壁や柱にイタリア産の大理石を用いた銀行らしい重厚な建築物は、大阪府庁ビルをしのいで当時最大規模となった。長らく「住友ビル」の愛称で親しまれ、竣工後80年以上を経た今もなお、本店として使われている。

歴史ある空間は、今も現役。

カウンターのある1階ホールへ入ると、格調高い装飾に目を奪われる。2階部分まで吹き抜けになった天井、コリント式と呼ばれる31本の列柱が並び、天井部分には花草模様極彩色で描かれ、カウンターは金色の模様が入った黒大理石。預金の引き出しや預け入れなど、業務は一般的な銀行窓口と変わらないのだが、華やかさについて背筋が伸びてしまう。それはここで働く行員の方々も同じのようで、やはりこの大阪本店に勤務することは名誉なことであり、憧れでもあるようだ。

レトロな外観で人気の近代建築だが、現代において使い続けることは、機能や維持管理の面において苦労が多いと言われる。そんな中で、会社のDNAを脈々と受け継ぎ、大阪の歴史をも物語る建築が現役で使われていることに、島民のみなさんに代わって敬意を表したいところである。



1階ホールの入口。威厳を感じさせるたたずまい。

三井住友銀行 大阪本店

本店1階の営業部は個人でももちろん利用可能。口座の開設、資産運用やローンの相談など、一般の銀行と業務内容は同じ。貸金庫の利用も受け付けている。
☎06-6227-2111（代表）



トウミン月報

2012年4月1日発行



マイセン300年の歴史がわかる展覧会



右「インド文様花卉文蓋付壺」
国立マイセン磁器美術館所蔵
中「恋するふたり」
国立マイセン磁器美術館所蔵
左「メナージュリ動物彫刻、
嗅ぎ煙草入れを持つサル」
国立マイセン磁器美術館所蔵



確かな伝統とデザインに魅了されたファンを世界中に持つドイツのマイセン。東洋陶磁美術館では開館30周年を記念して特別展「マイセン磁器の300年」が4月7日より始まる。東洋磁器への強い憧れからすべてが始まったマイセンの歴史だが、今回展示される約230点を通じて、その壮大なドラマを垣間見ることが出来る。

初期の「柿右衛門写し」や「シノワズリ（中国趣味）」などの作品群は、「白い金」と呼ばれるモティーフとされた中国製磁器への情熱が生み出したオマージュだった。また、ヨーロッパ宮廷文化に華を添えたロ可可様式の「フイギユリン」、産業分野として磁器が注目された時代の万国博覧会出品作など、ひとつひとつの作品から時代背景がうかがい知れる。同時開催の特集展「李秉昌コレクション 韓国陶磁」もどうぞ。

(江口由夏・本誌)

開館30周年記念特別展
**「国立マイセン磁器美術館所蔵
マイセン磁器の300年」**
会場／大阪市立東洋陶磁美術館
期間／4月7日(土)～7月22日(日)
時間／9:30AM～5:00PM
(入館は閉館30分前まで)
休館日／月曜日(4月30日は開館)
入場料／1,000円
問い合わせ／☎050-5542-8600
(8:00AM～10:00PM)



笑いと医療の コラボレーション



追手門学院大阪城スクエア恒例の落語イベント「追手門寄席」もいよいよ第三回目の開催。今回は「医師と看護師の落語」をテーマに、第一部は笑福亭たま「短命」、桂文喬

「研修医山田一郎」、笑福亭福笑「愛しのクレゾール」の落語3席が楽しめる。意外な組み合わせかもしれない笑いと医療、いったいどんな化学反応が生まれるのか楽しみだ。

そして第二部には「中之島ふらふら青春記」(P14)を連

第三回追手門寄席
「医師と看護師の落語」
日時／4月28日(土)2:00PM～
会場／追手門学院大阪城スクエア
参加費／1,500円 定員／200名
申し込み・問い合わせ／
追手門学院大手前センター
☎06-6942-2788
<http://www.otemon-osakajo.jp/>

戦中の久坂部羊さんも登場。高島幸次先生と共に「落語と小説と医療現場」と題したデイスカッションが行われる。現役の医師でもある久坂部さんの口から、落語よりも笑える実話(？)が聞けるかもしれない。(江口由夏・本誌)

中之島駅が ミュージアムになる！

中之島をテーマに絵画や川柳を募集していた芸術イベント「キテ・ミテ 中之島」。お年寄りから子供まで、たくさん作品が集まった。作品のエントリー期間も終了し、集まった作品は「キテ・ミテ 中之島 ミテ キテ ミュージアム」として京阪電車中之島駅に展示されることになる。

島民イチャオシの中之島ビューを切り取った絵画や、セン



この描いた絵が各分野のアーティストの作品とコラボレーションして展示される。いつも使う見慣れた駅の風景が、この期間には美術館のような

キテ・ミテ 中之島
ミテ・キテ ミュージアム
期間／4月15日(日)～5月6日(日)
場所／京阪電車中之島駅構内
問い合わせ／
キテ・ミテ 中之島事務局
☎06-6944-2736
<http://www.keihan.co.jp/>

(江口由夏・本誌)

雰囲気に変身。つい足を止めて見入ってしまうそうだ。

また中之島の他施設ともコラボ企画を開催。中之島ダイビルでは4月28日(土)に親子で鯉のぼりを作るイベントが「アートエリアB」では次世代アーティストを発掘するイベントが開催される。

大阪を「深読み」して 新しい発見を!

大阪文化の 深読み講座



専門家をゲストに迎えて送る、6回のシリーズだ。

記念すべき第1回目は「大阪弁のコミュニケーション」に

大阪について掘り下げて学ぶ「大阪文化の深読み講座」が、追手門学院大阪城スクエアにて4月から開講。9月まで毎月1回、金曜日の午後7時から、本誌でもおなじみの高島幸次先生がさまざまな分野の

スポーツライター。「話し言葉として大阪弁が最も適しているのは本当か?」といった疑問に挑むのは、マンガや小説の登場人物が話す「役割語」の研究で有名な言語学者・金水敏大阪大学教授。2回目以降

大阪文化の深読み講座

第1回「大阪弁のコミュニケーション」
日時／4月13日(金)7:00PM～8:30PM
会場／追手門学院大阪城スクエア
参加費／1,000円(全6回受講は5,000円)
定員／各回100名(先着順)
問い合わせ／追手門学院大手前センター
☎06-6942-2788
◎詳細・申し込みはホームページから。
<http://www.otemon-osakajo.jp/>

春は水都大阪ならではの桜の催しが目白押しだ。八軒家浜では恒例の川開きイベント

として「春の舟運まつり」はちけんやお花見フェスタ」の真ん中。対岸の南満公園の桜並木を一望できることから

「桜敷敷一等席」とも呼ばれている会場からは連日クルーズ船が出ており、造幣局の見事な桜を眺めながらゆったり過ごすことができる。

週末には、イチゴや菜の花などを使用したフードが食べられるケータリングが登場。新鮮な旬野菜が並ぶ春市場で買い物を楽しむこともできる。また、青空の下で川面を散歩できるパドルボートが体験で

きたり(日曜限定)、リバーサイドヨガなど体を動かすプログラムも。また、ライトアップされたきれいな夜桜を満喫するなら大阪水上バスのクルーズがおすすすめ。八軒家浜から出航する「夜桜船」に乗り込めば、ライトアップされて昼間とはまた一味違う風情の桜にうつ

たり。この他にも大阪城公園の桜のライトアップや、恒例・造幣局の桜の通り抜けなど、中之島の周りには桜を楽しめるスポットがたくさん。あちこち回ってみよう。

(江口由夏・本誌)



春の舟運まつり はちけんやお花見フェスタ

会場／八軒家浜
期間／4月15日(日)まで
入場無料
問い合わせ／春の舟運まつり事務局
☎06-6136-8484
◎各コンテンツの日時など、詳しくはホームページにて。
http://www.osaka-info.jp/suito/suito_haru2012/

大阪水上バス「夜桜船」

乗り場／八軒家浜船着場
期間／4月10日(火)まで
時間／6:30PM～7:30PM(4/6は7:30PMのみ)
料金／大人4,300円 小学生3,300円
(要予約・お花見券当付き)
申し込み・問い合わせ／アクアライナー予約センター
☎0570-035551

(江口由夏・本誌)



神様に捧げる 日本酒イベント!



日本酒好きによる日本酒好きのためのイベント「上方日本酒ワールド2012」が今年も大阪天満宮境内で開催される。参加者は専用グラスを購入し、17軒の屋台をまわり、好みの地酒をお手軽な価格で飲み比べていく。面白いのは、それぞれの蔵元とタッグを組んだ飲食店が、日本酒との相性を考えて出すオリジナルの酒肴。食中酒としての日本酒の楽しみ方を、最大で17通り味わえるというわけだ。

(江口由夏・本誌)

上方日本酒ワールド2012

日時／5月4日(金・祝)
10:00AM～
(売り切れ次第各店舗終了)
※雨天決行
会場／大阪天満宮境内
参加費／前売り400円、当日500円
問い合わせ／日本酒記固め
<http://manjigatame3.or.tv/>

文 人煎茶、あるいは煎茶趣味というものをこ存じだろうか。煎茶

はもともと中国のもので、江戸時代の初期、黄檗宗の祖として知られる隠元禪師によって日本に伝えられた。江戸時代の中頃（18世紀半ば）には、売茶ばいさ翁おきな高遊外たかうがいという人物が独自の解釈をもつて煎茶の普及に努めたことにより、文人たちの間で人気を博すようになった。当時、煎茶は言わば大陸からやって来た最新の文化。すでに広まっていた茶の湯が形式化しつつあったことへの反発もあり、煎茶を飲みながら清談を交わすという新しいスタイルは、船場や中之島で働く目新しいものの好きの大坂の商人たちにも広まっていた。

煎茶のたしなみとは、芳醇な香りと濃厚な味に誘われて、現実を離れて詩的な思索の世界に耽ること。書斎にこもり詩歌や書画を楽しむつ、自分の生き方を思い浮かべながら飲むものだったというから、商売で財を築き、学問や教養を身につけたいと思っていた大坂商人に広まるのも道理であったのだろう。

中 之島にほど近い場所にも、こうした歴史を受け継ぐ煎茶の宗家、一茶菴がある。現在の宗家・佃一輝さ



上／本部にある建物のうちの一つ。もとは蔵だった場所を改装し、中国的な趣に。数人が集まり、掛け軸を見ながら語り合ったりする。下左／家元の佃一輝さん。「習いに来られるのは、自分の中にある何かを見出したいと考えておられる方が多いですね」。

「文人煎茶」の家元があつた。

んで6代目。戦後すぐに建てられたという煎茶数寄屋建築の建物は、門下生の指導にあたる稽古場であり、知人を招いて煎茶会を催すサロンでもある。

近代以降、煎茶は家庭に取り入れられ、日常的な飲み物になっていくが、こちらではいれる人それぞれの個性を大切にしている。「文人煎茶は、茶の湯の

ようなおもてなしでもなく、日常的なものでもなく、自分でいれて自分で飲む『自娛』のためのもの。基本的な手順はありますが、あとはその人が自由

に演出すれば良いんです」と、佃さんは話す。

煎茶を習うことで、お茶をいれるのが上手になるといった実効的な効用もあるが、佃さんが強調するのはやはり江戸時代以来の文人たちの文化を追体験することだ。

「例えば部屋に鹿の絵が描かれた掛け軸がかかっているとします。日本では一人で過ごす寂しさのモチーフとしてよく使われるので、『これは私の寂しい気持ちを表しているのかもしれない

い』と考えたりする。でも、鹿はロクと読めることから、禄を連想させ、中国では縁起の良い存在でもある。こんなことを延々と考えながらお茶を飲み、やがて現実を忘れるわけです。ふだん経験することのないことを楽しむ訓練場にしてもらえれば」

一種独特の世界だが、確かに現実からは離れられそうだ。佃さんが「当時最高の文化人だった」という知的好奇心に溢れた江戸時代の町人たちを真似て、門をくぐってみるのはいかがか。

いっさあん 一茶菴

煎茶の一茶菴宗家。基本的な手順などを習う月3回の稽古（毎月第1～3水曜）のほか、毎月第4木曜には食事付きの煎茶会も開いており、どちらも初心者でも参加可能。まずは電話にて問い合わせを。●中央区大手通1-1-1 ☎06-6941-8001 <http://www.human-n.co.jp/issa-an/>

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 〔書店〕旭屋書店 梅田地下街店/旭屋書店 堂島地下街店/カベラ書店/紀伊國屋書店 本町店/ジュンク堂書店 大本店/ジュンク堂書店 天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/スタンダードブックス店 天牛塚書店/大江橋店/ブックファースト 梅田店/ブックファースト 淀屋橋店/文教堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店 〔公共施設・大学関連施設など〕アイズポット 朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立中央図書館/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪フィルハーモニーホール/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪リバーサイドキャンパス/国立国際美術館/CITY NAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メビック扇町
- 〔店舗・医院など〕アリアスカ マーブルトレ/アンドール 本町本店/上野貸自転車/ Ultra 2nd/江戸前鰻料理 志津可/ EXPO CAFE/ MJB珈琲店/大西洋服店/000 (オー) /カセット/喫茶カンターロ/喫茶SAWA/グランドコート中之島/黒門さかえ/コモンカフェ/サウ花店 中之島本店/ザ・メロディ/じろう亭/ Girond's JR/心斎橋山田兄弟歯科/住友病院/セブンイレブン大阪証券取引所店/タビエスタイル/ティールハウスムジカ/たまがわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/ NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャーノ/バスターラレ/花かつ/ BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/フレイルハウス/ミニロー/宮崎歯科/やきとり ばかや/吉田理容所/ラ・クッカーニャ/ LES LESTON
- 大阪市内その他 〔書店〕伊勢屋書店/大阪書店/紀伊國屋書店 京橋店/なんばミヤタ/福島書店/柳々堂/ルール書店 〔公共施設・大学関連施設など〕大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市立図書館 〔店舗・医院など〕あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパール/大阪市信用金庫 江戸堀支店/御船かもめ/ Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワナ/バルビコ/ホステル64オオサカ/ MANGUEIRA/ Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂 フレスト店/ Books 呼文堂/水嶋書房 くらげモール店/水嶋書房 くらげ駅店/大阪狭山市立図書館/大阪大学企画部広報・学芸連携事務局/大阪大学 21世紀記憶館/大阪大学本部/寝屋川市役所/摂南大学 地域連携センター/郵政考古学会/ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 新宿店/ジュンク堂書店 西宮店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/大手通りストリートギャラリー 街・発信/納屋工房/ターナー・シン普森/百練/奈良県立図書情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 本を読む、書店をめぐる。

創刊後間もなく特集した『シマ本』は、その後も続々と刊行。
さらに古本屋を中心に書店も増加中。本と本屋事情をめぐる特集です。

●『月刊島民』vol.46は2012年5月1日発行です！

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)

編集・発行/月刊島民プレス

若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)

松本 創 大迫 力(編集集団140B)

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階

Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341

制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)

デザイン/山崎慎太郎

表紙イラスト/奈路道程

印刷/佐川印刷株式会社



おけいはん
(楠葉けい子)

京橋から 七条まで ノンストップ! 京阪特急 「^{らく}洛^{らく}楽」 走ってます。

※6/3(日)までのすべての土休日に運転。

大阪⇔京都は、京阪特急で。

愛称決定!

ノンストップ
京阪特急

洛楽
RAKU RAKU

京都の旅を
ラクラク楽しく、
という意味が
こめられた愛称を、
一般公募により
決定しました。

ノンストップ京阪特急「洛楽」運転!

◎運転日 6/3(日)までのすべての土休日

◎京橋▶▶七条間ノンストップ 淀屋橋 ①10:06発 ②10:36発

ノンストップ京阪特急「洛楽」に関するお問い合わせ／京阪電車お客さまセンター Tel.06-6945-4560(9時~19時※土休日は17時まで)



京
阪
の
お
け
い
は
ん。